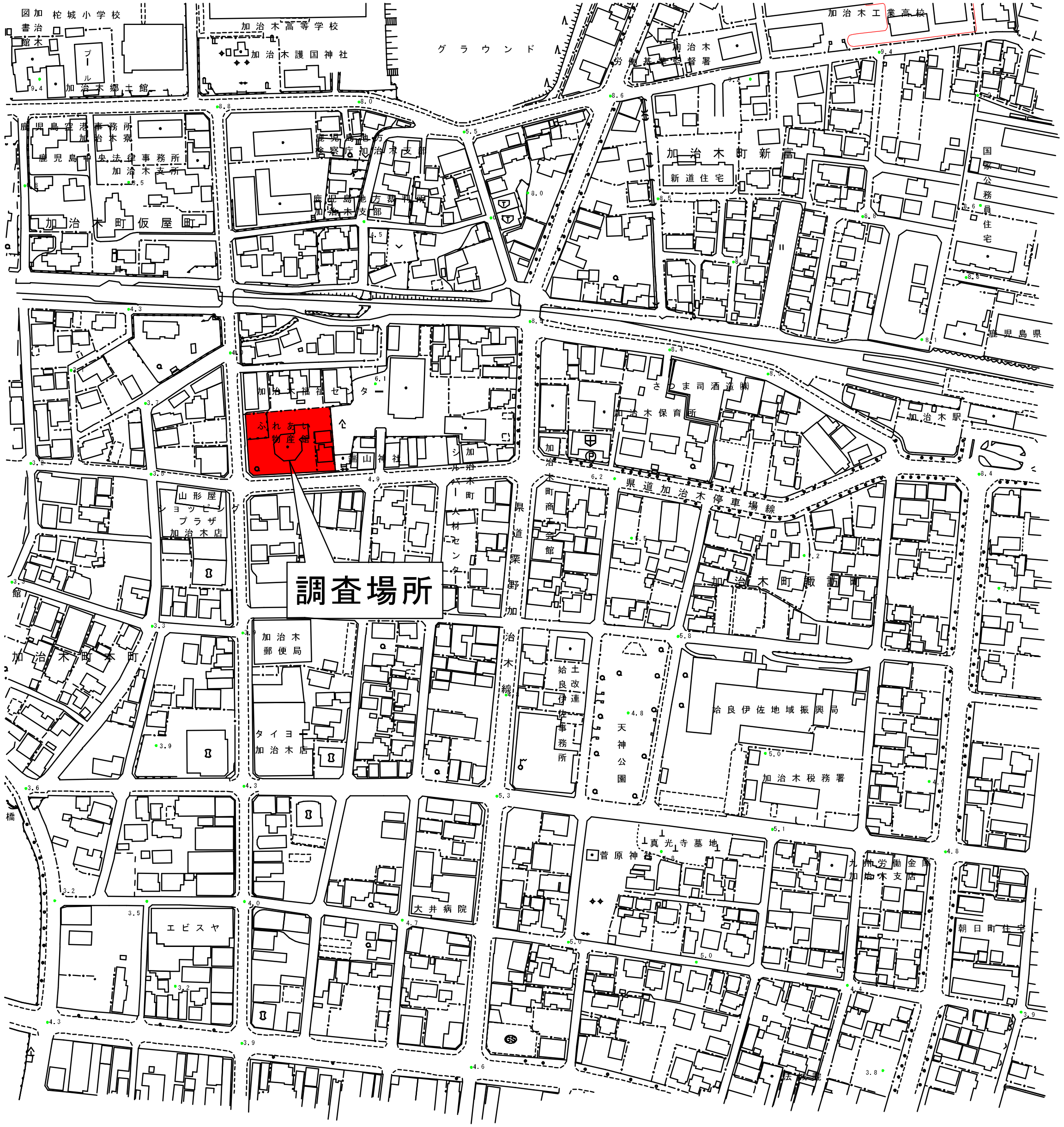
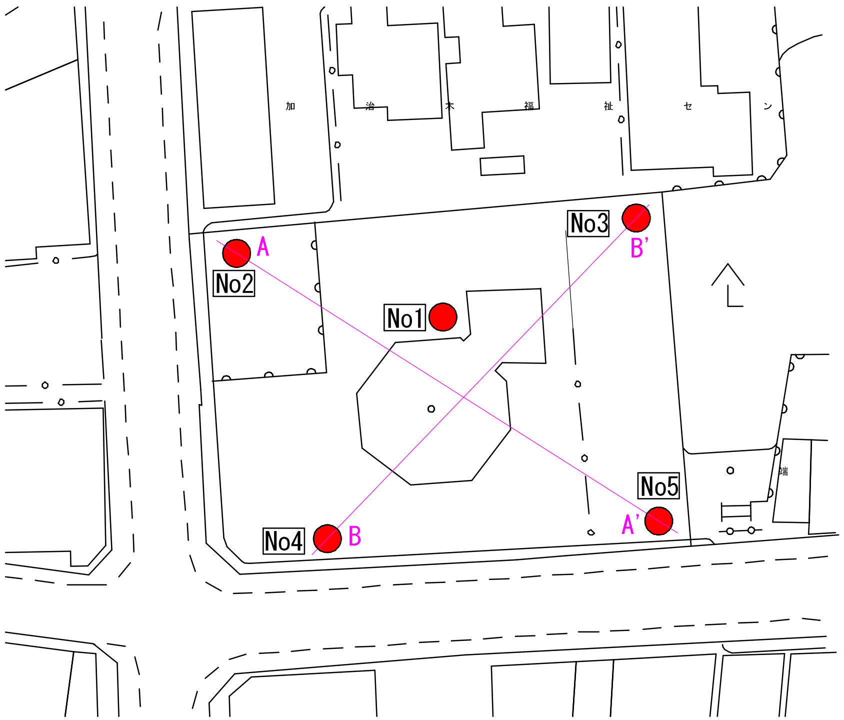


付近見取図



○：地質調査位置

No1　50m×1

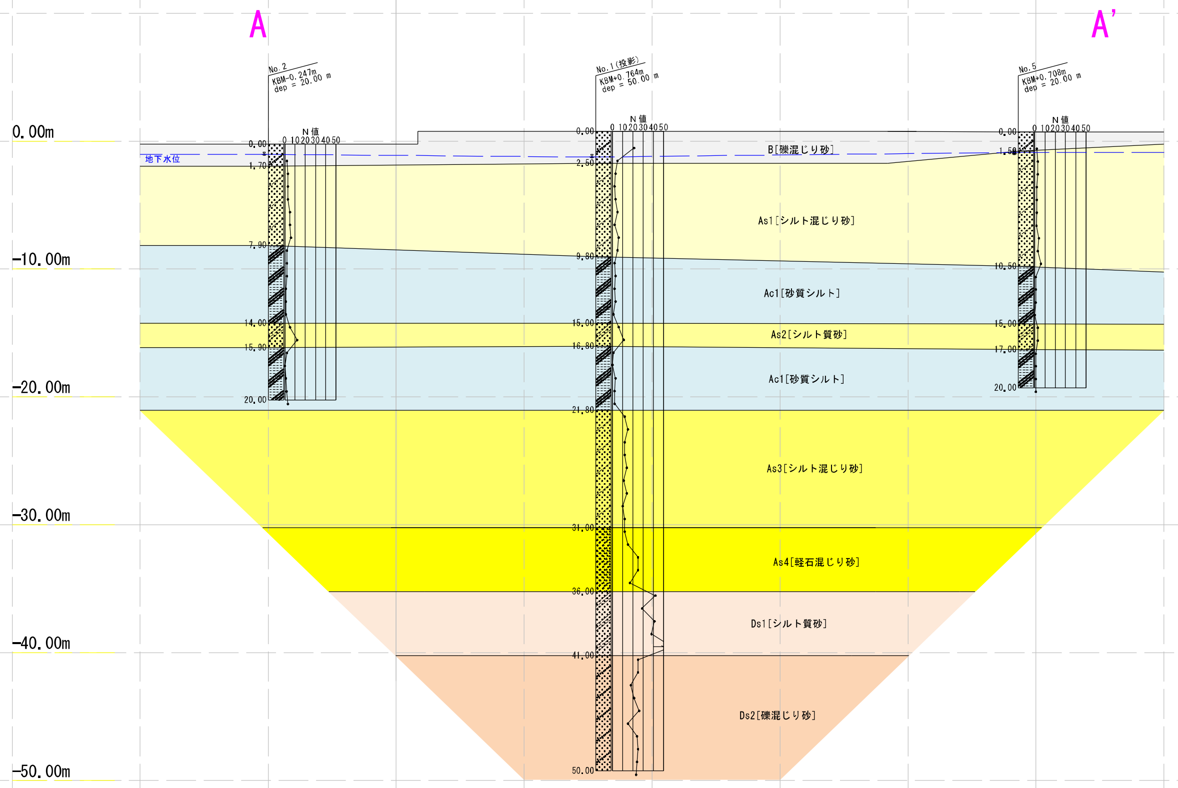
No2～No5　20m×4

配置図　1/600

姶良市役所　建築住宅課　建築係	〒 899－5492 鹿児島県姶良市宮島町25番地 TEL0995－66．3409(内191)	課長	係長	担当者	縮尺	工事名		図面番号
					/	図面名		

子育て支援拠点施設地質調査業務委託

地質断面図　S=1:400

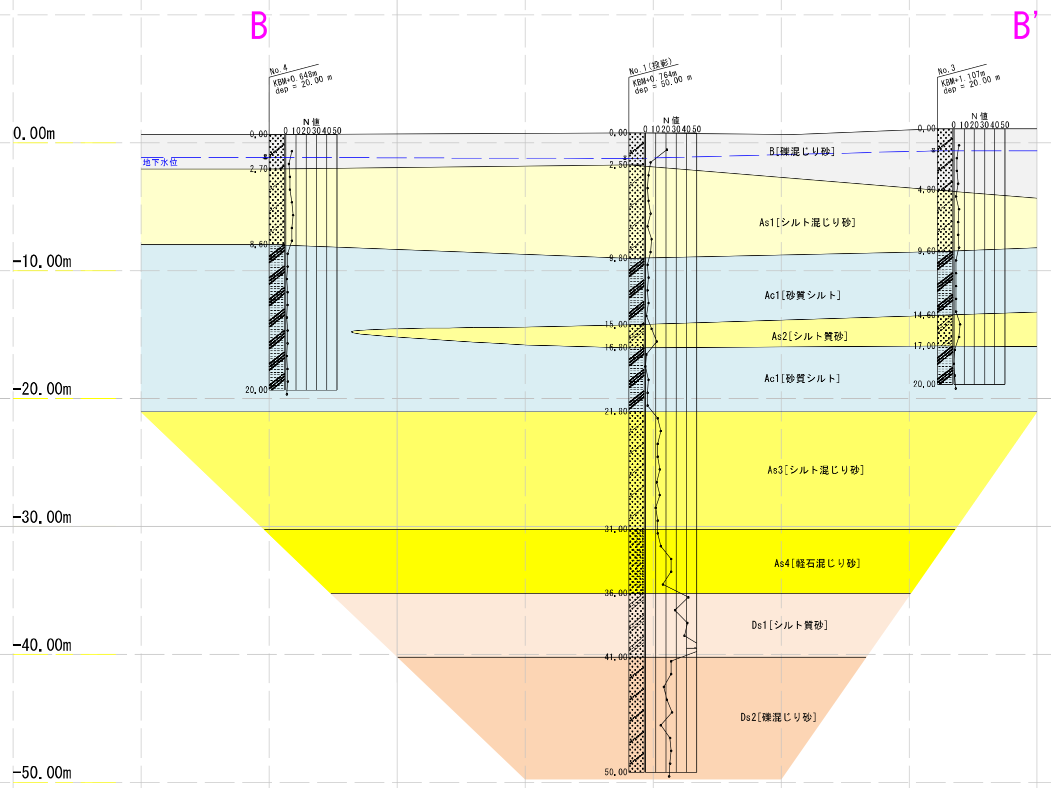


凡　例

地質時代			地層名	土質・地質名	記号
新生代	第四紀	完新世	沖積層	礫混じり砂	B
				シルト混じり砂	As1
				砂質シルト	Ac1
				シルト質砂	As2
				シルト混じり砂	As3
				軽石混じり砂	As4
		更新世	洪積層	シルト質砂	Ds1
				礫混じり砂	Ds2

子育て支援拠点施設地質調査業務委託

地質断面図　　S=1:400



凡　例

地質時代			地層名	土質・地質名	記号
新生代	第四紀	完新世	沖　積　層	礫混じり砂	B
				シルト混じり砂	As1
				砂質シルト	Ac1
				シルト質砂	As2
				シルト混じり砂	As3
				軽石混じり砂	As4
		更新世	洪　積　層	シルト質砂	Ds1
				礫混じり砂	Ds2

ボーリング柱状図

調査名　子育て支援拠点施設地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo	1

シートNo　1

ボーリング名	No.1	調査位置	姶良市加治木町本町　地内	北緯	31° 44’ 20.6″
発注機関	姶良市建設部建築住宅課建築係	調査期間	令和 3年 1月 12日 ～ 3年 1月 16日	東経	130° 39’ 56.7″
調査業者名	株式会社ホウセイ・技研　姶良支店 電話（0995-62-3787）	主任技師	松元啓輔	現場代理人	向江悠策
コア鑑定者	向江悠策	ボーリング責任者	森有也		
孔口標高	KBM +0.764m	角度	180° 上 / 下 0° / 90°	方向	北 0° / 270° 西 / 90° 東 / 180° 南
地盤勾配	水平0° / 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦製 DO-DR / エンジン：ヤンマー製 TF-90M	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	50.00m	ポンプ	東邦製 BG-3CR		

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
−1.74	2.50	2.50	礫混じり砂	暗褐灰～明褐	緩い～中位		砂分は中～粗砂主体である。礫はφ5～30mm大のものが混入する。含水量は多い。表層はアスファルトおよび砕石からなる。
−9.04	7.30	9.80	シルト混じり砂	暗灰	非常に緩い～緩い		砂分は細砂主体である。細粒分の含有量も多い。φ2～5mmの礫や軽石が少量混じる。含水量はやや多い。
−14.24	5.20	15.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。貝殻片は多量に混入する。含水量はやや多い。
−16.04	1.80	16.80	シルト質砂	暗灰	緩い～中位		砂分は微細砂主体である。上部は細粒分の含有量が非常に多い。含水量はややある。
−21.04	5.00	21.80	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。含水量はやや多い。
−30.24	9.20	31.00	シルト混じり砂	暗灰	中位		砂分は細～中砂主体である。全体的に細粒分が少量含有する。含水量はややある。
−35.24	5.00	36.00	軽石混じり砂	淡灰	中位		砂分は中～粗砂主体である。φ5～60mmの軽石が多量混入する。含水量はややある。
−40.24	5.00	41.00	シルト質砂	暗灰	中位～非常に密		砂分は微細砂主体である。深度40.00m付近は細粒分主体で、固結する。含水量は少ない。
−49.24	9.00	50.00	礫混じり砂	暗灰	中位		砂分は中～細砂主体である。φ5～50mm大の礫やφ2～20mmの軽石が混入する。礫は上部に多く混入する。含水量はややある。

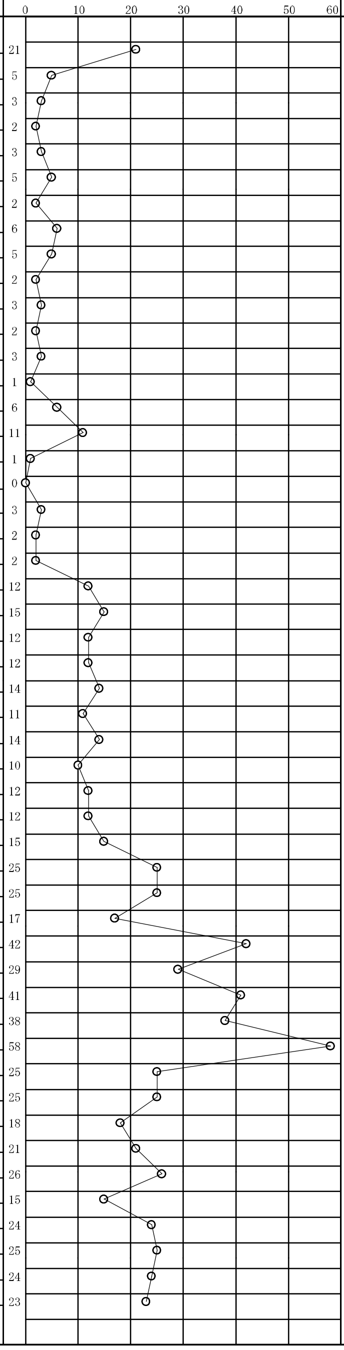
孔内水位(m)／測定月日：1/12 2.00

掘進月日：1/12（約1.5m）、1/13（約21m）、1/14（約33m）、1/16（約49.5m）

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	8	7	6	21/30	21
2.15～2.45	2	2	1	5/30	5
3.15～3.45	1	1	1	3/30	3
4.15～4.45	1/15	1/15		2/30	2
5.15～5.45	1	1	1	3/30	3
6.15～6.45	1	2	2	5/30	5
7.15～7.45	1/20	1		2/30	2
8.15～8.45	2	2	2	6/30	6
9.15～9.45	1	2	2	5/30	5
10.15～10.45	1/20	1		2/30	2
11.15～11.45	1	1	1	3/30	3
12.15～12.45	1/20	1		2/30	2
13.15～13.45	1	1	1	3/30	3
14.15～14.45	1/30			1/30	1
15.15～15.45	2	2	2	6/30	6
16.15～16.45	2	4	5	11/30	11
17.15～17.45	1/30			1/30	1
18.00～18.50	ハンマー自沈			0/50	0
19.15～19.45	1	1	1	3/30	3
20.15～20.45	1/15	1/15		2/30	2
21.15～21.45	1/20	1		2/30	2
22.15～22.45	4	4	4	12/30	12
23.15～23.45	5	5	5	15/30	15
24.15～24.45	3	4	5	12/30	12
25.15～25.45	4	4	4	12/30	12
26.15～26.45	4	5	5	14/30	14
27.15～27.45	3	4	4	11/30	11
28.15～28.45	4	4	6	14/30	14
29.15～29.45	4	3	3	10/30	10
30.15～30.45	4	4	4	12/30	12
31.15～31.45	4	4	4	12/30	12
32.15～32.45	4	5	6	15/30	15
33.15～33.45	8	8	9	25/30	25
34.15～34.45	7	8	10	25/30	25
35.15～35.45	5	6	6	17/30	17
36.15～36.45	10	15	17	42/30	42
37.15～37.45	8	9	12	29/30	29
38.15～38.45	12	14	15	41/30	41
39.15～39.45	12	13	13	38/30	38
40.15～40.45	14	14	30	58/30	58
41.15～41.45	8	8	9	25/30	25
42.15～42.45	8	8	9	25/30	25
43.15～43.45	4	7	7	18/30	18
44.15～44.45	7	7	7	21/30	21
45.15～45.45	7	8	11	26/30	26
46.15～46.45	5	5	5	15/30	15
47.15～47.45	7	8	9	24/30	24
48.15～48.45	8	8	9	25/30	25
49.15～49.45	8	8	8	24/30	24
50.15～50.45	8	8	7	23/30	23

N値



原位置試験（深度、試験名および結果）／試料採取（深度、試料番号、採取方法）／室内試験：記載なし

ボーリング柱状図

調　査　名　子育て支援拠点施設地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo	2

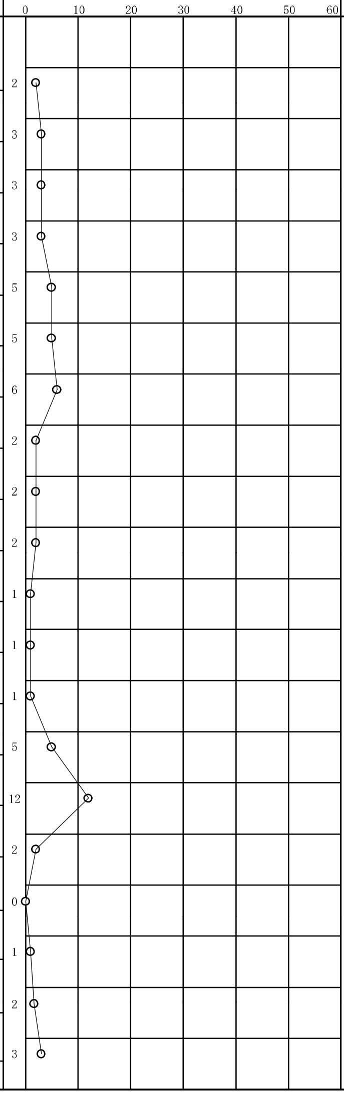
シートNo　1

ボーリング名	No.2	調査位置	始良市加治木町本町　地内			北　緯	31° 44’ 20.7″
発注機関	始良市建設部建築住宅課建築係		調査期間	令和 2年 12月 17日 ～ 2年 12月 18日		東　経	130° 39’ 55.7″
調査業者名	株式会社ホウセイ・技研　始良支店 電話（0995-62-3787）	主任技師	松元啓輔	現場代理人	向江悠策	コア鑑定者	向江悠策
ボーリング責任者	小森優一						
孔口標高	KBM −0.247m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	20.00m	使用機種	試錐機：東邦製D0-D型	ハンマー落下用具	半自動落下装置		
			エンジン：ヤンマー製NFAD型	ポンプ	東邦製BG-3C型		

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
−1.95	1.70	1.70	礫混じり砂	淡灰褐	非常に緩い		砂分は中～粗砂主体である。礫はφ5～20mm大のものが混入する。含水量は多い。表層はアスファルトおよび砕石からなる。	12/18 0.80
−8.15	6.20	7.90	シルト混じり砂	暗灰	非常に緩い～緩い		砂分は細砂主体である。細粒分の含有量も多い。φ2～5mmの礫や軽石、貝殻片が少量混じる。含水量はやや多い。	
−14.25	6.10	14.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。貝殻片は多量に混入する。含水量はやや多い。	
−16.15	1.90	15.90	シルト質砂	暗灰	緩い～中位		砂分は微細砂主体である。上部は細粒分の含有量が非常に多い。貝殻片が混じる。含水量はややある。	
−20.25	4.10	20.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。貝殻片は混入する。含水量はやや多い。	

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	1/20	1		2/30	2
2.15～2.45	1	1	1	3/30	3
3.15～3.45	1	1	1	3/30	3
4.15～4.45	1	1	1	3/30	3
5.15～5.45	2	1	2	5/30	5
6.15～6.45	1	2	2	5/30	5
7.15～7.45	1	2	3	6/30	6
8.15～8.45	1/20	1		2/30	2
9.15～9.45	1/15	1/15		2/30	2
10.15～10.45	1/15	1/15		2/30	2
11.15～11.45	1/30			1/30	1
12.15～12.45	1/30			1/30	1
13.15～13.45	1/30			1/30	1
14.15～14.45	1	2	2	5/30	5
15.15～15.45	4	4	4	12/30	12
16.15～16.45	1/15	1/15		2/30	2
17.15～17.50	ハンマー自沈			0/35	0
18.15～18.45	1/30			1/30	1
19.15～19.50	1/20	1/15		2/35	2
20.15～20.45	1	1	1	3/30	3



原位置試験：深度 (m)、試験名および結果 — 記載なし

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45		⊖	物理
3.15～3.45		⊖	物理
11.15～11.45		⊖	物理
14.15～14.45		⊖	物理
17.15～17.50		⊖	物理

掘進月日：12/17（～15.3m付近）、12/18（～20.00m）

ボーリング柱状図

調査名　子育て支援拠点施設地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo	3

シートNo　1

ボーリング名	No.3	調査位置	始良市加治木町本町　地内	北緯	31°44’20.8″
発注機関	始良市建設部建築住宅課建築係	調査期間	令和 2年 12月 10日 ～ 2年 12月 10日	東経	130°39’57.6″
調査業者名	株式会社ホウセイ・技研　始良支店 電話（0995-62-3787）	主任技師	松元啓輔	現場代理人	向江悠策
コア鑑定者	向江悠策	ボーリング責任者	塚原学		

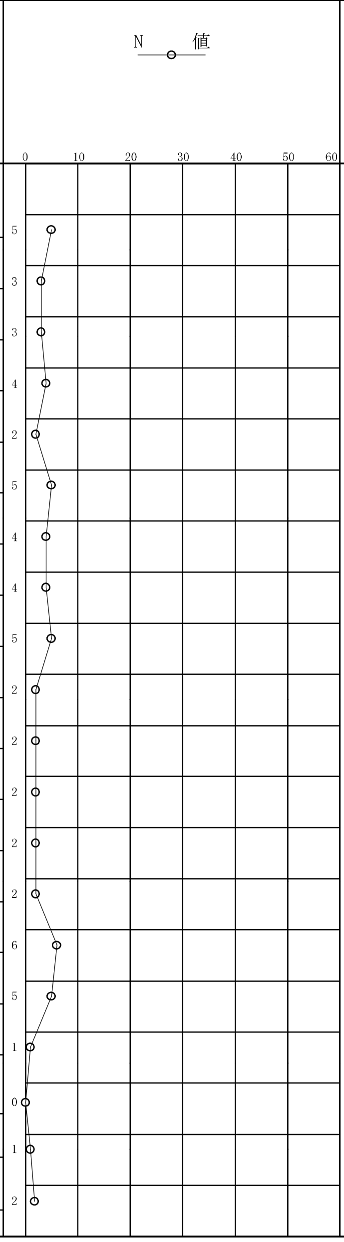
孔口標高	KBM +1.107m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	20.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
試錐機	YBM製05DA型	ハンマー落下用具	半自動落下装置		
エンジン	ヤンマー製NS10	ポンプ	YBM製GP-5型		

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-3.69	4.80	4.80	礫混じり砂	淡灰褐～暗灰	緩い		砂分は中～粗砂主体である。 礫はφ5～20mm大のものが混入する。 含水量はやや少ない。 表層はシラス盛土である。
-8.49	4.80	9.60	シルト混じり砂	暗灰	非常に緩い～緩い		砂分は細砂主体である。細粒分の含有量も多い。 φ2～5mmの礫や軽石、貝殻片が少量混じる。 含水量はやや多い。
-13.49	5.00	14.60	砂質シルト	暗灰		軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。 貝殻片は多量に混入する。 含水量はやや多い。
-15.89	2.40	17.00	シルト質砂	暗灰	緩い		砂分は微細砂主体である。細粒分の含有量が非常に多い。 貝殻片が混じる。 含水量はややある。
-18.89	3.00	20.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。 貝殻片は混入する。 含水量はやや多い。

孔内水位(m)／測定月日：12/10 1.75

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15～1.45	1	2	2	5/30	5
2.15～2.45	1	1	1	3/30	3
3.15～3.45	1	1	1	3/30	3
4.15～4.45	1	2	1	4/30	4
5.15～5.45	1/20	1		2/30	2
6.15～6.45	1	2	2	5/30	5
7.15～7.45	1	1	2	4/30	4
8.15～8.45	1	1	2	4/30	4
9.15～9.45	1	2	2	5/30	5
10.15～10.45	1/16	1/14		2/30	2
11.15～11.45	1/15	1/15		2/30	2
12.15～12.45	1/20	1		2/30	2
13.15～13.45	1/17	1/13		2/30	2
14.15～14.45	1/20	1		2/30	2
15.15～15.45	2	2	2	6/30	6
16.15～16.45	1	2	2	5/30	5
17.15～17.45	0	1/20		1/30	1
18.15～18.60	ハンマー自沈			0/45	0
19.15～19.45	1/30			1/30	1
20.15～20.48	1/18	1/15		2/33	2



掘進月日：12/10（20.00m）

ボーリング柱状図

調　査　名　子育て支援拠点施設地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo	4

シートNo　1

ボーリング名	No．4	調査位置	姶良市加治木町本町　地内			北　緯	31°　44’　19.8″
発注機関	姶良市建設部建築住宅課建築係		調査期間	令和 2年 12月 10日 ～ 2年 12月 11日		東　経	130°　39’　57.6″
調査業者名	株式会社ホウセイ・技研　姶良支店 電話（0995-62-3787）	主任技師	松元啓輔	現場代理人	向江悠策	コア鑑定者	向江悠策
ボーリング責任者	上久保貴彦						
孔口標高	KBM +0.648m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	20.00m						
使用機種	試錐機	東邦製DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置			
	エンジン	ヤンマー製TF-90N	ポンプ	東邦製BG-3C			

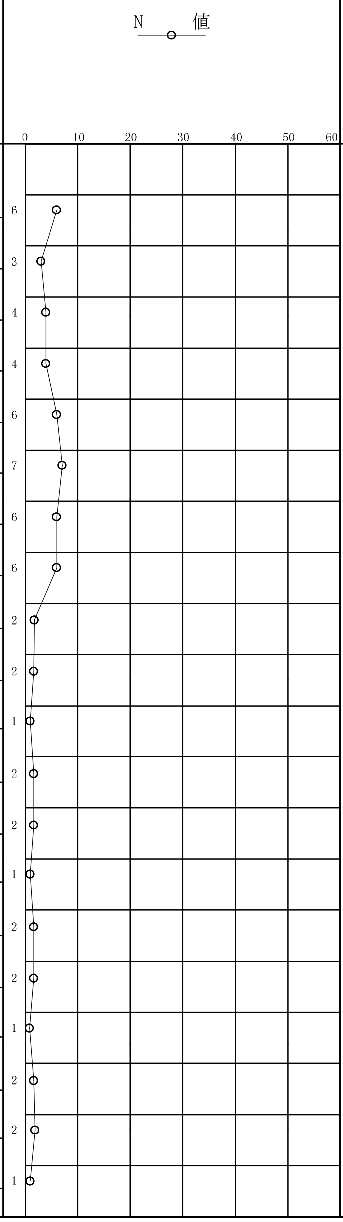
標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-2.05	2.70	2.70	礫混じり砂	暗褐	非常に緩い～緩い		砂分は中～粗砂主体である。 礫はφ5～10mm大のものが混入する。 含水量はやや少ない。 表層はシラス盛土からなる。
-7.95	5.90	8.60	シルト混じり砂	暗灰	緩い		砂分は細砂主体である。細粒分の含有量も多い。 φ2～5mmの礫や軽石、貝殻片が少量混じる。 含水量はやや多い。
-19.35	11.40	20.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性はやや強い。 砂分は全体的に混入し、微細砂が多く含有する。 貝殻片は全体的に多量混入する。 含水量はやや多い。

孔内水位(m)／測定月日：12/10 1.80、12/11 1.80

掘進月日：12/10（～18m）、12/11（～20m）

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	3	2	1	6/30	6
2.15～2.45	1	1	1	3/30	3
3.15～3.45	1	2	1	4/30	4
4.15～4.45	1	1	2	4/30	4
5.15～5.45	2	2	2	6/30	6
6.15～6.45	2	2	3	7/30	7
7.15～7.45	2	2	2	6/30	6
8.15～8.45	2	2	2	6/30	6
9.15～9.49	1/18	1/16		2/34	2
10.15～10.50	1/19	1/16		2/35	2
11.15～11.45	1/30			1/30	1
12.15～12.50	1/20	1/15		2/35	2
13.15～13.51	1/20	1/16		2/36	2
14.15～14.45	1/30			1/30	1
15.15～15.50	1/19	1/16		2/35	2
16.15～16.51	1/21	1/15		2/36	2
17.15～17.48	1/33			1/33	1
18.15～18.52	1/22	1/15		2/37	2
19.15～19.47	1/17	1/15		2/32	2
20.15～20.45	1/30			1/30	1



原位置試験：深度 (m)、試験名および結果
試料採取：深度 (m)、試料番号、採取方法
室内試験

ボーリング柱状図

調　査　名　子育て支援拠点施設地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo	5

シートNo　1

ボーリング名	No．5	調査位置	始良市加治木町本町　地内	北　緯	31°　44’　19.7″
発注機関	始良市建設部建築住宅課建築係	調査期間	令和　2年　12月　8日　～　2年　12月　9日	東　経	130°　39’　56.1″
調査業者名	株式会社ホウセイ・技研　始良支店 電話（0995-62-3787）	主任技師	松元啓輔	現場代理人	向江悠策
コア鑑定者	向江悠策	ボーリング責任者	塚原学		

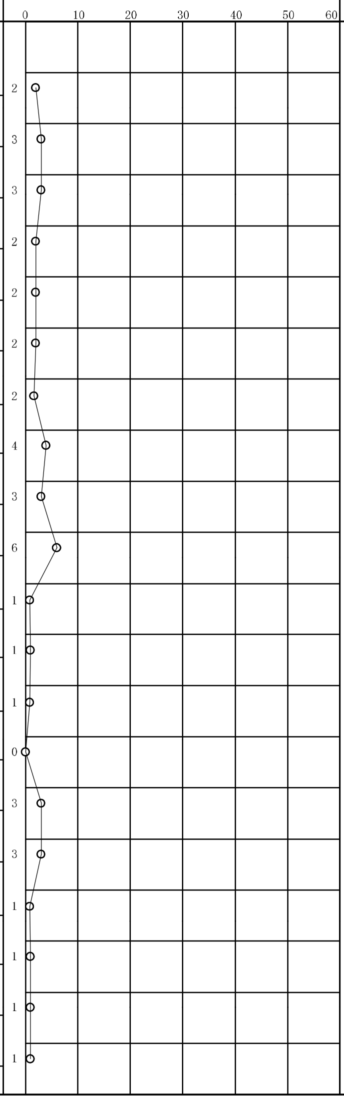
孔口標高	KBM +0.708m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	20.00m	使用機種	試錐機	YBM製05DA型	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	ヤンマー製NS10	ポンプ	YBM製GO-5型	

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-0.79	1.50	1.50	礫混じり砂	淡褐灰	非常に緩い		砂分は中～粗砂主体である。 礫はφ5～10mm大のものが混入する。 含水量は少ない。 表層はアスファルトおよび砕石からなる。
-9.79	9.00	10.50	シルト混じり砂	暗灰	非常に緩い～緩い		砂分は細砂主体である。細粒分の含有量も多い。 φ2～5mmの礫や軽石、貝殻片が少量混じる。 含水量はやや多い。
-14.29	4.50	15.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性はやや強い。砂分は微細砂が多く含有する。 貝殻片は多量に混入する。 含水量はやや多い。
-16.29	2.00	17.00	シルト質砂	暗灰	非常に緩い		砂分は微細砂主体である。細粒分の含有量が非常に多い。 貝殻片が混じる。 含水量はややある。
-19.29	3.00	20.00	砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性はやや強い。 砂分は微細砂が多く含有する。 貝殻片は混入する。 含水量はやや多い。

孔内水位(m)／測定月日：12/8 1.50、12/9 1.50

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	1/18	1/12		2/30	2
2.15～2.45	1	1	1	3/30	3
3.15～3.45	1	1	1	3/30	3
4.15～4.45	1/15	1/15		2/30	2
5.15～5.45	1/20	1		2/30	2
6.15～6.45	1/22	1/8		2/30	2
7.15～7.50	1/20	1/15		2/35	2
8.15～8.45	1/15	1/5	2	4/30	4
9.15～9.45	1/16	1/6	1/8	3/30	3
10.15～10.45	2	2	2	6/30	6
11.15～11.50	1/35			1/35	1
12.15～12.45	1/30			1/30	1
13.15～13.50	1/35			1/35	1
14.15～14.45	ハンマー自沈			0/30	0
15.15～15.45	1/15	1	1/5	3/30	3
16.15～16.45	1/13	1/12	1/5	3/30	3
17.15～17.50	1/35			1/35	1
18.15～18.45	0/15	1/15		1/30	1
19.15～19.45	1/30			1/30	1
20.15～20.45	1/30			1/30	1



掘進月日：12/8（14m）、12/9（20m）